

歯科補綴学教育基準 改訂 2006



社団法人

日本補綴歯科学会

2007

「歯科補綴学教育基準改訂 2006」について

社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 赤川安正

歯学教育に大きな改革の波が押し寄せている現在、歯学部の学生や臨床研修医が習得すべき内容は年々増加し、また多岐にわたり、さらにカリキュラムの再編により歯科補綴学の講義や基礎実習の時間が減少し、臨床実習での患者不足などもあり、もはや伝統的な講義や基礎実習、また臨床実習では習得しきれないのが現状であります。そこで、問題解決型学習（Problem - based learning）やスモールグループでの学習形式をとり、学生が自ら学習する状況を創り出す教育手法も必要とされるようになってきています。

そのような状況のもと、社会と国民に対して大きな義務と責任を負う社団法人日本補綴歯科学会は、歯科補綴学の学問体系を整理し、時代の要請に沿う教育基準を社会に示す必要があると考え、本学会が策定した「歯科補綴学教育基準 2001 改訂」をさらに改訂し、それを日本補綴歯科学会雑誌と本学会の Web 上に公開する運びとなりました。

今回の改訂の主要点は、本学会用語集で定義した用語と歯科医師国家試験に用いられる用語との整合性を図ったことにあります。当初は、歯科補綴学における技術レベルの低下を懸念して、技術に関する項目として卒前の学生や臨床研修医の習得する事項、そして補綴歯科専門医として習得する事項に分けて新たに「実技教育基準」の策定を計画しましたが、これは本学会が現在全力を挙げて取り組んでいる多施設前向きコホート研究「補綴治療の難易度を計測するプロトコル」の結果を待ってからの方がよいと判断し、今回は知識レベルの改訂に留めた内容としました。

この改訂をまとめていただいた教育問題検討委員会 櫻井委員長をはじめ、委員会の方々、またご協力いただいた会員の方々に、心からお礼を申し上げます。

改訂した教育基準が歯科補綴学の教育に携わる方々はもちろんのこと、自学自習を志す学生や臨床研修医、さらには関係者にも多いに活用されることを期待しています。

平成 18（2006）年 12 月吉日

社団法人 日本補綴歯科学会
教育問題検討委員会

委員長 櫻井 薫
副委員長 豊田 實
委員 鎌田政善
河野文昭
小正 裕
幹事 上田貴之

目 次

I 歯科補綴学・治療総論

(I) 歯科補綴学の意義・目的	1
1. 歯科補綴学の定義	
2. 補綴歯科治療と健康科学	
3. 補綴歯科治療の利益と不利益	
4. 補綴歯科治療に関連する疫学	
(II) 補綴歯科治療に関連する顎口腔系の形態と機能	1
1. 顎顔面形態	
2. 顎顔面形態にかかわる心理的要素	
3. 下顎運動	
4. 咬合	
5. 咀嚼・嚥下・構音	
6. 口腔内感覚	
7. 老化と加齢変化	
8. 高齢者の特徴	
(III) 補綴歯科治療と生体反応	6
1. 咀嚼筋と顎骨・顎関節	
2. 歯と歯周組織	
3. 顎堤・粘膜	
4. 口腔内微生物との関連	
5. 歯科用材料と生体反応	
6. 補綴歯科治療と QOL	
(IV) 顎口腔系と精神心理的・社会的側面	7
1. 顎口腔系と心理的側面	
2. 顎口腔系と社会的側面	
(V) 歯科補綴用器材	7
1. 検査機器・材料	
2. 補綴治療用機器・材料	
3. 技工用機器・材料	

II 歯科補綴学・治療各論

(I) 歯質・少数歯欠損による咬合咀嚼障害の補綴治療学	8
1. 咬合咀嚼障害の病因と病態	
2. 主要症候〔症状と徴候〕	
3. 医療面接と診察	
4. 検査	
5. 評価と診断	

6. 治療計画を左右する因子	
7. 補綴装置（クラウン・ブリッジ）の要件	
8. クラウンの種類	
9. ブリッジの種類と構成	
10. ブリッジの設計	
11. 治療の到達目標	
12. 治療	
13. 術後管理〔経過観察〕	
(Ⅱ) 歯列部分欠損による障害の補綴治療学	15
1. 障害の種類	
2. 障害の病因と病態	
3. 主要症候〔症状と徴候〕	
4. 医療面接と診察	
5. 検査	
6. 評価と診断	
7. 治療計画を左右する因子	
8. 治療法	
9. 補綴装置（部分床義歯ほか）	
9-1 義歯の分類	
9-2 義歯の構成要素	
10. 設計	
11. 治療の到達目標	
12. 治療	
13. 術後の管理	
(Ⅲ) 無歯顎による障害の補綴治療学	25
1. 障害の種類	
2. 障害の病因と病態	
3. 主要症候〔症状と徴候〕	
4. 医療面接と診察	
5. 検査	
6. 評価と診断	
7. 治療計画を左右する因子	
8. 治療法	
9. 補綴装置（全部床義歯ほか）	
10. 設計	
11. 治療の到達目標と予後	
12. 治療	
13. 術後の管理	
(Ⅳ) 顎顔面欠損による障害の補綴治療学	36
1. 障害の種類	

2. 障害の病因と病態
 3. 主要症候〔症状と徴候〕
 4. 医療面接と診察
 5. 検査
 6. 評価と診断
 7. 治療法（リハビリテーション）
 8. 治療の到達目標
 9. 術後の管理
 10. 他科との連携
- (V) 欠損・障害の口腔インプラント補綴治療学 38
1. インプラントの基本構造
 2. 障害の種類
 3. 障害の病因と病態
 4. 主要症候〔症状と徴候〕
 5. 医療面接と診察
 6. 検査
 7. 評価と診断
 8. 補綴装置
 9. 治療の到達目標
 10. 治療
 11. 術後の管理と臨床経過
 12. 口腔インプラントの応用
- (VI) 顎機能障害の補綴治療学 40
1. 病態
 2. 分類
 3. 病因と発症メカニズム
 4. 主要症候〔症状と徴候〕
 5. 医療面接と診察
 6. 検査
 7. 評価と診断
 8. 治療の到達目標
 9. 治療
 10. 術後の管理
- (VII) 歯・歯列・歯周組織・口腔の疾患・障害の補綴治療学 42
1. 疾患・障害の分類
 2. 病態
 3. 主要症候〔症状と徴候〕
 4. 医療面接と診察
 5. 検査
 6. 評価と診断

7. 治療の到達目標	
8. 治療	
9. 術後の管理	
(Ⅷ) 摂食嚥下障害	42
1. 病態	
2. 発症に関わる全身的因子	
3. 口腔領域に起因する摂食嚥下障害	
4. 医療面接と診察	
5. 検査	
6. 評価・診断	
7. 咀嚼嚥下障害への対応	
8. 摂食嚥下障害への介護	
9. 摂食嚥下障害の管理プログラム	

I 歯科補綴学・治療総論

(I) 歯科補綴学の意義・目的

大項目	中項目	小項目
1. 歯科補綴学の定義	A. 定義	a 補綴歯科治療の種類と変遷
	B. 種類	
2. 補綴歯科治療と健康科学	A. 全身とのかかわり	
	B. 顎口腔系とのかかわり	
	C. 精神・心理的なかかわり	
3. 補綴歯科治療の利益と不利益	A. 形態・機能・審美性の回復・改善・維持	
	B. 補綴歯科治療による不利益	
4. 補綴歯科治療に関連する疫学	A. 補綴歯科治療と EBM	

(II) 補綴歯科治療に関連する顎口腔系の形態と機能

大項目	中項目	小項目
1. 顎顔面形態	A. 顔貌	a 正貌
		b 側貌
		c 人中
		d 鼻唇角
		e 鼻唇溝
		f オトガイ唇溝
		g 対称性
	B. 歯と歯列	a 歯冠
		b 歯頸
		c 歯根
		d 咬合面
		e 隣接面
		f 近心面
		g 遠心面
		h 舌側面
		i 唇側面
		j 頬側面
		k 歯軸・歯冠軸
	C. 顎および顎関節	
	C-1 上顎	a 上顎結節
		b 上顎洞
		c 口蓋
		d 切歯孔
		e 大口蓋孔
		f 小口蓋孔
		g 口蓋小窩
		h 口蓋縫線
		i 口蓋隆起
		j 口蓋ヒダ [口蓋皺襞]

大項目	中項目	小項目
	C-2 下顎 C-3 顎関節 D. 筋 D-1 開口筋 D-2 閉口筋 D-3 前方運動に関与する筋 D-4 後方運動に関与する筋 D-5 側方運動に関与する筋 D-6 口唇を形成し，動かす筋 D-7 頬を形成し，動かす筋 D-8 口腔底を形成し，動かす筋 D-9 舌を形成し，動かす筋 D-10 軟口蓋を形成し，動かす筋	k ハミュラーノッチ l 顎堤 g 顎堤粘膜 a 関節突起 b 筋突起 c 下顎頭 [顎頭] d 下顎管 e 下顎孔 f オトガイ孔 g 頬棚 h 下顎隆起 i オトガイ棘 j 外斜線 k 内斜線 l 顎舌骨筋線 m 顎堤 n 顎堤粘膜 a 下顎窩 [関節窩] b 下顎頭 [顎頭] c 関節包 d 関節腔 e 関節結節 f 関節円板 g 外側翼突筋 h 靭帯 i 後部結合組織 j 滑液 a 顎舌骨筋 b オトガイ舌骨筋 c 顎二腹筋 d 外側翼突筋 a 咬筋 b 内側翼突筋 c 側頭筋

大項目	中項目	小項目
<p>2. 顎顔面形態にかかわる心理的要素</p> <p>3. 下顎運動</p>	<p>E. 軟組織</p>	<p>a アーライン [Ah-line] b レトロモラーパッド c 硬口蓋 d 軟口蓋 e 口唇 f 口蓋ヒダ [口蓋皺壁] g 口腔前庭 h 切歯乳頭 i 頬小帯 j 上唇小帯 k 下唇小帯 l 舌小帯 m 唾液腺 n 歯肉 o 舌 p 舌下ヒダ q フラビーガム r 翼突下顎ヒダ</p>
	<p>A. 審美的要件</p>	<p>a 歯列形態 b 歯の色調 c 歯冠（唇面）形態 d 歯冠の大きさ e SPA 要素 f 被蓋 g 笑線</p>
	<p>A. 下顎位 A-1 下顎安静位 A-2 中心咬合位 A-3 中心位 A-4 終末蝶番位 A-5 嚙下位 A-6 発音位 A-7 偏心位 B. 下顎運動 C. 下顎限界運動</p>	<p>a 安静空隙 a 咬頭嵌合位 b 筋肉位 c 顎頭安定位 d 習慣性咬合位 a 偏心咬合位 b 側方咬合位 c 前方咬合位 d 後方咬合位 a 開閉運動 b 前方滑走運動 c 後方滑走運動 d 側方滑走運動 e 習慣性開閉口運動 a ポッセルトの図形 b 前方限界運動</p>

大項目	中項目	小項目
4. 咬合	D. 下顎運動要素 D-1 切歯路 D-2 顆路 E. 運動の基準点と基準面 E-1 基準平面 E-2 基準線 E-3 基準点 E-4 投影面 A. 咬合の概念 A-1 咬合様式	c 後方限界運動 d 側方限界運動 e 終末蝶番運動 f 上方限界運動 g 最大開口位 h 開口量
		a 切歯点 b 矢状切歯路傾斜角 c 側方切歯路角 d ゴシックアーチ
		a 顆頭点 b 矢状顆路傾斜角 c 側方顆路角 [ベネット角] d サイドシフト e フィッシャー角
		a 咬合平面 b 水平基準 (平) 面 c 仮想咬合平面 d フランクフルト平面 e カンベル平面
		a 正中線 b 口角線 c 上唇線 d 下唇線 e 鼻翼幅線 f 瞳孔線 g 歯槽頂線 h 歯槽頂間線
		a 耳珠 b 鼻翼 c オトガイ点 d 眼窩下縁 e 外眼角 f 鼻下点 g 切歯乳頭 h ハミュラーノッチ
		a 前頭面 b 矢状面 c 水平面
		a フルバランスドオクルージョン b グループファンクション

大項目	中項目	小項目
5. 咀嚼・嚥下・構音	A-2 正常な咬合関係	c ミューチュアリープロテク ティッドオクルージョン
		a 正常な咬合接触
		b 水平被蓋
	A-3 異常な咬合関係	c 垂直被蓋
		a 異常な咬合接触
		b 交叉咬合
		c 反対咬合
		d 切端咬合
		e 過蓋咬合
		f 開咬
	A-4 義歯の咬合様式	a 両側性平衡咬合
		b 片側性平衡咬合
	B. 解剖学的要素	
	B-1 歯列および顔面, 頭蓋	a 歯列, 歯列弓, 顎堤弓
		b 基準点 (面)
		c 被蓋
		d 歯軸
		e 歯牙弯曲
		f スピーの湾曲
		g ウィルソンの湾曲
		h モンソンの湾曲
	i ボンウィル三角	
C. 生理学的要素		
C-1 神経筋機構		
C-2 顎 (下顎) 反射	a 開口反射	
	b 閉口反射	
	b-1 下顎張反射	
	b-2 歯根膜 - 咬筋反射	
	c 側方への反射	
C-3 歯根膜感覚		
C-4 粘膜感覚		
C-5 顎関節感覚		
C-6 筋感覚		
C-7 逃避運動		
A. 咀嚼		
A-1 咀嚼機能	a 口唇, 頬, 舌および口蓋の機能	
	b 咀嚼筋の機能	
	c 咀嚼能力・咀嚼能率	
	d 咀嚼力・咬合力	
A-2 咀嚼運動	e 咀嚼側・非咀嚼側	
	a 咀嚼運動の制御	
	b 咀嚼運動路	
B. 嚥下	a 嚥下反射	

大項目	中項目	小項目
6. 口腔内感覚	C. 構音	b 嚙下の機構 a 歯音, 歯茎音, 両唇音, 唇歯音, 口蓋音 b 構音のしくみ c 補綴装置と構音障害 d 補綴歯科術式への発語機能の応用 e S字状隆起
7. 老化と加齢変化	A. 感覚機能	a 痛覚 b 触覚 c 圧覚 d 温覚 e 冷覚 f 深部感覚 f-1 位置感覚 f-2 運動感覚
8. 高齢者の特徴	A. 形態的变化	g 味覚 a 上顎 b 下顎 c 対向関係 d 顎関節 e 粘膜 f 骨
	B. 機能的変化	g 顔貌 a 筋活動 b 咀嚼 c 発音 d 感覚 e 唾液
	C. 全身状態に伴う変化	
	A. 身体的特徴	
	B. 精神的特徴	
	C. 社会的特徴	
	D. 全身的合併症	
	E. 治療時の配慮	

(Ⅲ) 補綴歯科治療と生体反応

大項目	中項目	小項目
1. 咀嚼筋と顎骨・顎関節	A. 補綴装置による下顎骨の保持 B. 力的負荷に対する顎関節の生体反応 C. 下顎の機能と顎関節・咀嚼筋	
2. 歯と歯周組織	A. 補綴装置と歯 B. 補綴装置と歯周組織	

大項目	中項目	小項目
3. 顎堤・粘膜	C. 補綴装置からの外力に対する生体反応	
	A. 顎骨のリモデリング	
4. 口腔内微生物との関連	B. 補綴装置からの外力に対する生体反応	
5. 歯科用材料と生体反応	A. 付着と抗菌性	
	A. 生体適合性の区分	
	B. 金属・レジンアレルギー	
6. 補綴歯科治療とQOL	C. インプラントと生体反応	
	A. 補綴歯科治療と味覚	
	B. 補綴歯科治療とADL	
	C. 補綴歯科治療と精神活動	
	D. 補綴歯科治療と咀嚼嚥下	

(IV) 顎口腔系と精神心理的・社会的側面

大項目	中項目	小項目
1. 顎口腔系と心理的側面	A. 歯と心理	
	B. 口腔機能と心理	
	C. 顔面と心理	
	D. 顎機能と心理	
2. 顎口腔系と社会的側面		

(V) 歯科補綴用器材

大項目	中項目	小項目
1. 検査機器・材料	A. 顎機能検査機器	
	A-1 種類	
	B. 検査用材料	
2. 補綴治療用機器・材料	A. 歯科補綴用機器	
	A-1 切削・研削機器	
	A-2 切削・研削工具	
	A-3 印象用器具	
	A-4 咬合採得用器具	
	B. 咬合器の種類	
	B-1 調節機構による分類	a 蝶番〔平線〕咬合器
		b 平均値咬合器
		c 半調節性咬合器
		d 全調節性咬合器
		e 特殊(な)咬合器
	B-2 顎路指導要素による分類	a アルコン型咬合器
		b コンダイラー型咬合器
		c スロット型
		d ボックス型
		e 非顎路型
	C. 模型の咬合器への装着	a フェイスボウ

大項目	中項目	小項目
3. 技工用機器・材料	D. 咬合器の調節 E. 歯科補綴用材料 E-1 補綴用材料 E-2 中間消耗材料 E-3 インプラント材料 E-4 生体親和性材料 [バイオマテリアル] の 応用	b フェイスボウトランスファー c 咬合平面板 a 顎路 b 切歯路

II 歯科補綴学・治療各論

(I) 歯質・少数歯欠損による咬合咀嚼障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 咬合咀嚼障害の病因と病態	A. 病因 A-1 歯質欠損の原因 A-2 歯の欠損の原因 B. 歯質欠損による咬合咀嚼障害の病態 B-1 歯質欠損の大きさ B-2 歯質欠損の範囲 B-3 咬合障害 C. 少数歯欠損による咬合咀嚼障害の病態 C-1 欠損の様式 C-2 歯列の変化 C-3 咬合障害 C-4 咀嚼障害 C-5 顎堤の変化	
2. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 症状 A-1 歯質欠損による咬合咀嚼障害の症状 A-2 少数歯欠損による咬合咀嚼障害の症状 B. 徴候 B-1 歯質欠損による咬合咀嚼障害の徴候 B-2 少数歯欠損による咬合咀嚼障害の徴候	
3. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察	

大項目	中項目	小項目
4. 検査	C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療的計画 E-3 教育計画 F. インフォームドコンセント A. 口腔検査 A-1 歯髄検査 A-2 歯周組織検査 A-3 歯列の検査 A-4 唾液検査 B. 咬合検査 B-1 咬合接触検査 B-2 誘導様式の検査 C. 機能検査 C-1 咀嚼能力〔能率〕検査・ 咀嚼能率測定 C-2 下顎運動検査 C-3 筋機能検査 C-4 構音検査 C-5 嚥下機能検査 D. 模型検査 D-1 研究用模型検査 D-2 咬合器上の研究用模型 検査 E. エックス線検査 E-1 デンタルエックス線写 真検査 E-2 パノラマエックス線写 真検査 E-3 顎関節エックス線写真 検査	
5. 評価と診断	A. 顎機能・咬合の評価・臨床診 断 B. 支台歯の評価・臨床診断 C. 治療計画の立案	
6. 治療計画を左右する因子	A. 咬合に関する因子 B. 口腔環境のリスクファクター C. 支台歯の状態 D. 顎堤の状態 E. 審美性 F. 口腔内感覚と発音 G. 口腔衛生〔清掃〕状態 H. 他科処置との関連	

大項目	中項目	小項目
7. 補綴装置(クラウン・ブリッジ)の要件	I. 年齢 J. 性格 K. 職業 L. 習慣 M. 患者の受療条件 N. 全身疾患 A. 生物学的要件 B. 機能的要件 C. 力学的要件 D. 審美的要件 E. 材料学的要件	
8. クラウンの種類	A. 全部被覆冠 A-1 全部鑄造冠 A-2 メタルボンドクラウン (陶材焼付鑄造冠) A-3 レジン前装鑄造冠 A-4 ポーセレンジャケット クラウン A-5 レジンジャケットクラ ウン A-6 その他のクラウン B. 部分被覆冠 B-1 3/4冠 B-2 4/5冠 B-3 ピンレッジ B-4 プロキシマルハーフク ラウン B-5 インレー B-6 アンレー B-7 ラミネートベニア B-8 その他の一部被覆冠	a CAD/CAM クラウン b キャスタブルセラミッククラ ウン
9. ブリッジの種類と構成	C. ポストクラウン A. 臨床的意義 B. 適応症 C. 種類 C-1 固定性ブリッジ C-2 半固定性ブリッジ C-3 可撤性ブリッジ C-4 その他のブリッジ D. 支台装置	a キャスタブルセラミックイン レー b CAD/CAM インレー c CAD/CAM アンレー (オン レー) a 接着ブリッジ

大項目	中項目	小項目
	D-1 概要 D-2 種類 E. ポンテック E-1 概要 E-2 生物学的要件 E-3 機能的要件 E-4 力学的要件 E-5 審美的要件 E-6 材料学的要件 E-7 構造 E-8 基底面形態の種類と特徴 F. 連結部	a 支台歯への影響 b 歯槽堤粘膜への影響 c 基底面の形態と材料 d 自浄性・清掃性 a 咀嚼 b 構音 a 材料と強度 a レジン前装ポンテック b 金属ポンテック c 陶歯応用ポンテック d 陶材焼付ポンテック a 離底型ポンテック b 船底型ポンテック c 偏側型ポンテック d リッジラップ型ポンテック e 鞍状型ポンテック f 有床型ポンテック g 有根型ポンテック a ろう付け法 b ワンピースキャスト法
10. ブリッジの設計	A. 支台歯の負担能力 B. 欠損歯数と支台歯数 C. 支台装置の選択 D. 咬合と咬合圧負担 E. ポンテック基底面形態 F. ブリッジの連結法 G. 延長ブリッジ H. 材料の選択	
11. 治療の到達目標	A. クラウンによる治療の予後 B. ブリッジによる治療の予後	
12. 治療	A. インフォームドコンセント B. 患者教育 C. 補綴前処置 C-1 予防的処置 C-2 外科的処置 C-3 保存的処置 C-4 矯正の処置	a 刷掃指導 b 歯石除去 a 歯槽整形 a 歯内療法 b 修復処置 c 歯周療法 a MTM

大項目	中項目	小項目
	C-5 補綴的処置	a 咬合調整 b テンポラリークラウン・ブリッジ c 暫間義歯
	D. 支台歯形成の概説	a 切削と歯質との関係 b 切削と歯髄との関係 c 切削と歯周組織との関係 d 切削時の注意事項 e 切削方法
	E. 支台歯形成の前準備	
	E-1 除痛	a 麻酔
	E-2 歯肉圧排	a 機械的圧排法 b 薬物的圧排法 c 機械的薬物的圧排法 d 外科的圧排法
	E-3 外科的処置	a 歯肉弁切除 b 被覆歯肉切除
	F. 支台歯形態の要件	a 保持力および強度 b 歯周組織との関連事項 c 外形線の設定 d 歯頸部辺縁形態 e 咬合面形態 f 軸面形態 g 切端形態 h 根面形態 i 補助的保持形態
	G. 切削・研削器具の種類と取り扱い	a 切削・研削器具 b 切削・研削工具
	H. クラウンの支台歯形成	a 全部被覆冠 b 部分被覆冠 c ポストクラウン d 支台築造
	I. ブリッジの支台歯形成	a 固定性ブリッジ b 半固定性ブリッジ c 可撤性ブリッジ
	J. 支台築造法	
	J-1 臨床的意義	
	J-2 種類と術式, 製作法	a 練成材コア (ファイバーポストを含む) b ポストコア
	K. 暫間処置 (テンポラリークラウン・ブリッジ)	
	K-1 臨床的意義	
	K-2 種類	
	K-3 製作法	
	K-4 装着	a 試適・装着時の注意

大項目	中項目	小項目
	L. 印象採得の前準備	b 仮着材の種類と取り扱い方
	L-1 間接法の概説	
	L-2 歯肉圧排法	a アルジネート印象材
	L-3 印象材の種類	b 寒天印象材
		c ポリサルファイドラバー印象材
		d シリコンラバー印象材
		e ポリエーテルラバー印象材
	L-4 理工学的性質	a 既製トレー
	L-5 使用器具	b 個人トレー
		c 個歯トレー
		d シリンジ
	M. 印象採得	
	M-1 印象法	a 単一印象法
		b 二重同時印象法
		c 連合印象法
		d 個歯トレー印象法
	N. 作業用模型	
	N-1 構成と要件	a 石膏系模型材
		b レジン系模型材
		c 歯型の修正 [トリミング]
		d ダウエルピン
		e ダイロックトレー
	N-2 種類	a 歯型可撤式模型
		b 分割復位式模型
		c 副歯型式模型
		d 歯型固着式模型
	O. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	O-1 咬合関係の決定 [咬合採得]	
	O-2 下顎位・下顎運動の記録 (チェックバイト)	
	O-3 咬合器装着	
	O-4 咬合器の調節	
	P. 製作および装着	
	P-1 ワックスの種類と取り扱い	a 種類
		b 分離剤
	P-2 ワックスアップ法	a 圧接法
		b ディッピング法
		c 盛り上げ法
		d FGP テクニック
	P-3 埋没の準備	a スプルーイング
		b 湯溜り

大項目	中項目	小項目
		c エアベント d 界面活性剤 e キャスティングライナー
	P-4 埋没材の種類	a クリストバライト埋没材 b リン酸塩系埋没材 c 石英埋没材
	P-5 埋没法	d 鑲着用埋没材 a 単一埋没法 b 二重埋没法 c 真空埋没法
	P-6 鑄造法	d リングレス埋没法 a 鑄造法 b 金属溶解法 c 鑄造体の清掃
	P-7 使用金属	a 金合金 b 金銀パラジウム合金 c 陶材焼付用金属 d 純チタン, チタン合金
	P-8 鑄造収縮の補償	a 埋没材の膨縮 b 金属の鑄造収縮
	P-9 鑄造欠陥	a 鑄巣 b バックプレッシャー c 湯境い d 肌あれ e 穴 f バリ g ヒートスポット
	P-10 鑲着	h なめられ a 鑲の所要性質 b フラックス c アンチフラックス d 鑲着操作 e レーザー溶接
	P-11 熱処理	a 硬化熱処理 b 軟化熱処理
	P-12 研磨	a 意義と目的 b 用具と材料 c 手順
	Q. 鑄造法以外の製作	
	Q-1 光重合	a 築盛 b 光重合, 研磨
	Q-2 焼成法	a 築盛 b ポーセレン焼成, 研磨
	Q-3 CAD/CAM 法	a CAD の形状測定 b CAM の機械加工, 研磨
	R. 口腔内試適および装着	

大項目	中項目	小項目
13. 術後管理 [経過観察]	R-1 試適	a 適合状態 b 頬舌面形態 c 隣接面の接触関係 d 咬合関係 e 審美性 f 人工歯排列
	R-2 仮着	a 仮着の目的と注意点 b 仮着材の性質
	R-3 合着	a 合着材の性質 b 合着材の種類 c 合着材の取り扱いおよび器具
	A. 歯周組織の管理	
	A-1 歯周組織の変化	
	A-2 歯肉炎, 歯周炎への対応	
	A-3 負担過重の影響	
	B. 歯の管理	
	B-1 齲蝕	
	B-2 咬耗	
	C. 咬合の管理	
	C-1 咬合接触点の変化	
	C-2 咬合高径の低下への対応	
C-3 早期接触, 咬合干渉への対応		
D. 補綴装置の管理		
D-1 脱離	a クラウンの脱離 b コアの脱離	
D-2 外観変化および破損	a 前装の破損	
E. 患者指導		
F. ホームケアとプラークコントロール		
G. リコール		

(Ⅱ) 歯列部分欠損による障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 障害の種類	A. 機能障害 B. 形態障害 C. 心理的障害 D. 社会的障害	
2. 障害の病因と病態	A. 歯の喪失の原因 A-1 齲蝕 A-2 歯周病 A-3 外傷 A-4 咬合性外傷	

大項目	中項目	小項目
	B. 歯列・歯槽堤の変化 B-1 歯列の連続性の喪失 B-2 咬合接触の喪失 B-3 咬合支持様式の変化 B-4 歯槽骨の喪失 B-5 顎堤形態の変化 B-6 顔貌の変化 C. 感覚の変化 C-1 歯髄感覚の喪失 C-2 歯根膜感覚の喪失 D. 欠損の分類 D-1 部位別分類 D-2 位置的分類 D-3 咬合支持域による分類 D-4 咬合支持と欠損部位による分類	a 前歯欠損 b 臼歯欠損 c 前歯臼歯欠損 a 中間欠損 b 遊離端欠損 c 複合欠損 d ケネディーの分類 a アイヒナーの分類 a 宮地の分類
3. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 自覚症候 B. 他覚症候	
4. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療的計画 E-3 教育計画 F. インフォームドコンセント	
5. 検査	A. 基本検査 A-1 口腔検査 A-2 咬合検査 A-3 機能検査	a 歯髄検査 b 歯周組織検査 c 歯列の検査 d 唾液検査 a 咬合接触検査 b 誘導様式の検査 a 咀嚼能力〔能率〕検査・咀嚼能率測定 b 下顎運動検査 c 構音検査 d 嚥下機能検査

大項目	中項目	小項目
<p>6. 評価と診断</p> <p>7. 治療計画を左右する因子</p> <p>8. 治療法</p> <p>9. 補綴装置（部分床義歯ほか）</p> <p>9-1 義歯の分類</p>	<p>B. 画像検査</p> <p>B-1 デンタルエックス線検査</p> <p>B-2 パノラマエックス線検査</p> <p>B-3 顎関節エックス線検査</p> <p>C. 模型上の検査</p> <p>D. 使用中の義歯の検査</p> <p>A. 支台歯の評価・診断</p> <p>B. 顎堤の評価・診断</p> <p>C. 機能的評価・診断</p> <p>D. 口腔衛生状態の評価・診断</p> <p>E. パーソナリティーの評価・診断</p> <p>F. インフォームドコンセント</p> <p>G. 補綴前治療</p> <p>A. 口腔内因子</p> <p>A-1 咬合に関する因子</p> <p>A-2 口腔環境のリスクファクター</p> <p>A-3 支台歯の状態</p> <p>A-4 顎堤の状態</p> <p>A-5 審美性</p> <p>A-6 口腔内感覚と構音</p> <p>A-7 口腔衛生〔清掃〕状態</p> <p>B. 全身的因子</p> <p>B-1 他科処置との関連</p> <p>B-2 全身疾患を有する者・高齢者</p> <p>C. 社会・心理的因子</p> <p>C-1 職業</p> <p>C-2 習癖・習慣</p> <p>C-3 患者の受療条件</p> <p>A. 部分床義歯</p> <p>B. インプラント義歯</p> <p>A. 咬合圧支持による分類</p> <p>B. 目的別分類</p>	<p>a 研究用模型検査</p> <p>b 咬合器上の研究用模型検査</p> <p>a 歯根膜支持〔負担〕義歯</p> <p>b 粘膜支持〔負担〕義歯</p> <p>c 歯根膜粘膜支持〔負担〕義歯</p> <p>a 最終義歯</p> <p>b 暫間義歯</p> <p>c 即時義歯</p> <p>d 治療用義歯</p> <p>e 移行義歯</p>

大項目	中項目	小項目
9-2 義歯の構成要素	C. その他の分類	<ul style="list-style-type: none"> a オーバーデンチャー b 顎義歯・顔面補綴 c インプラント義歯
	<ul style="list-style-type: none"> A. 可撤性支台装置 <ul style="list-style-type: none"> A-1 機能的要件 <ul style="list-style-type: none"> a 機能 b 所要条件 c 支台歯間線 [鉤間線] d 咬合圧支持の原則 e クラスプの利点と欠点 A-2 支持 <ul style="list-style-type: none"> a 歯根膜支持 b 粘膜支持 c 歯根膜粘膜支持 A-3 把持 <ul style="list-style-type: none"> a 片側性平衡 b 両側性平衡 c 反対側支台装置による安定 d 舌と頬による安定 A-4 維持 <ul style="list-style-type: none"> a 支台装置による維持 b 義歯床による維持 A-5 支台装置の種類 <ul style="list-style-type: none"> a クラスプ b アタッチメント c フック・スパー A-6 クラスプの分類と構成 <ul style="list-style-type: none"> a 鑄造鉤 b 線鉤 c コンビネーションクラスプ d 鑄造鉤と線鉤との比較 e 鉤体 f 鉤腕 g 鉤肩 h 鉤尖 i 鉤脚 j 維持腕 k 拮抗腕 l 隣接面板 m レスト n 材質 A-7 鑄造鉤の種類 <ul style="list-style-type: none"> a エーカーズクラスプ [レスト付二腕鉤] b ローチクラスプ c リングクラスプ d RPIクラスプ e 双子鉤 f 連続鉤 g ヘアピンクラスプ h バックアクションクラスプ i リバースバックアクションクラスプ 	

大項目	中項目	小項目
	A-8 アタッチメント	<ul style="list-style-type: none"> j ハーフアンドハーフクラスプ k 延長腕鉤 l 環状鉤 m バークラスプ n コンビネーションクラスプ a 特徴と構造 b 固定部 c 可撤部 d キーアンドキーウェイ e 力の方向付け f 維持機構 g 審美性 h 感覚障害の軽減
	B. 連結子 [装置]	
	B-1 大連結子 [装置]	<ul style="list-style-type: none"> a 意義と役割 b 所要条件
	B-2 大連結子 [装置] の種類	<ul style="list-style-type: none"> a パラタルバー b リンガルバー c 外側バー d パラタルストラップ e パラタルプレート f リンガルプレート g ケネディバー
	B-3 大連結子 [装置] の設計の要件	<ul style="list-style-type: none"> a 発音・感覚障害の条件 b 強度の条件 c 抗たわみ性と緩圧作用
	B-4 小連結子 [装置]	
	C. 人工歯	
	C-1 部位による分類	<ul style="list-style-type: none"> a 前歯人工歯 b 臼歯人工歯
	C-2 形態による分類	<ul style="list-style-type: none"> a 解剖学的人工歯 b 機能的人工歯 c 非解剖学的人工歯
	C-3 材質による分類	<ul style="list-style-type: none"> a レジン歯 b 硬質レジン歯 c 陶歯 d 金属歯
	D. 義歯床	<ul style="list-style-type: none"> a 所要条件 b 床支持部 c 床連結部 d 粘膜面 e 研磨面 [筋圧面] f 床縁 g 頬, 口唇, 舌との関係
	E. 金属床義歯	<ul style="list-style-type: none"> a 意義と役割 b 種類

大項目	中項目	小項目
10. 設計	<p>A. 設計の基本原則</p> <p>B. 設計手順</p> <p>C. 支台装置および連結装置の設計</p> <p>D. 設計の方針</p> <p> D-1 サベイング</p> <p> D-2 サベイヤーの構造と用具</p> <p> D-3 サベイングに関する事項</p>	<p>c 設計の所要条件</p> <p>d ワンピースキャスト法</p> <p>e フレームワーク</p> <p>f 維持格子</p> <p>g フィニッシュライン</p> <p>h ビーディング</p> <p>i ティッシュストップ</p> <p>a 義歯の安定と残存組織の保護</p> <p>b 義歯の安定と力の均等配分</p> <p>c 咬合接触様式</p> <p>d 感覚・発音などの条件</p> <p>e 審美的条件</p> <p>f 衛生的条件</p> <p>g 心理的条件</p> <p>h 直接支台装置</p> <p>i 間接支台装置</p> <p>a サベイング</p> <p>b 義歯床の設計</p> <p>c 支台歯の選択</p> <p>d 支台装置の設計</p> <p>e 連結子（装置）の設計</p> <p>a 支持</p> <p>b 把持</p> <p>c 維持</p> <p>a 着脱方向</p> <p>b 最大豊隆線の記入</p> <p>c アンダーカット量の測定</p> <p>d 床外形記入</p> <p>e バー設定位置の検討</p> <p>f ブロックアウト</p> <p>g ガイドプレーンの設定</p> <p>a 本体</p> <p>b 模型台</p> <p>c アナライジングロッド</p> <p>d アンダーカットゲージ</p> <p>e カーボンマーカー</p> <p>f 補強鞘</p> <p>g ワックストリマー</p> <p>h テーパーツール</p> <p>a 着脱方向</p> <p>b サベイライン</p> <p>c 鉤指導線</p> <p>d 歯肉、顎堤の最大豊隆線</p> <p>e ファーズーン</p> <p>f ニアゾーン</p>

大項目	中項目	小項目
11. 治療の到達目標 12. 治療	A. プロブレムの解決 B. 患者の満足 C. 長期間にわたる良好な予後 A. インフォームドコンセント B. 補綴前処置 C. 印象採得の準備 C-1 トレー C-2 トレーの種類 C-3 トレーの適合, 調整と製作法 C-4 嘔吐反射に対する処置 D. 印象採得 D-1 目的 (方針) D-2 基底面と床縁の表現方法 E. 印象法の種類 E-1 印象材の組合せ E-2 目的別分類 E-3 粘膜への圧力別および機能別	g 歯冠円錐 [咬合円錐] h 歯肉円錐 [歯根円錐] i 等高点 [トライポッド] a レストシート b ガイドプレーン c クラウンとブリッジ d 歯冠形態修正 e 連結・固定 f 咬合平面の修正 g ティッシュコンディショニング h 褥瘡性潰瘍に対する処置 i 旧義歯の修正 j 治療用義歯 a トレーの使用目的と所要条件 a 材料 b 既製トレー c 個人トレー d 個歯トレー e 印象材の保持方法 a 既製トレーの適合, 調整 b 個人トレーの製作 a 体位・頭位 b 薬物 a 残存歯の正確な印象 b 粘膜負担部の印象 c 筋圧面の機能的調和 d 残存歯と欠損部の適切な位置づけ a 負担圧の均等化 b 筋圧形成 [筋形成, 辺縁形成] a 単一印象 b 連合印象 a 概形印象 b 最終印象 c リライン印象 d オルタードキャスト法 a 加圧印象

大項目	中項目	小項目
	E-4 印象材別の分類	<ul style="list-style-type: none"> b 無圧印象 c 解剖学的印象 d 機能印象 e 咬合印象 f 咬合圧印象 g 咬座印象 h ダイナミック印象 a ハイドロコロイド系 b ゴム質 c コンバウンド類 d 酸化亜鉛ユージノール印象材 e ワックス系 f レジン系
	F. 模型	
	F-1 所要条件	<ul style="list-style-type: none"> a 正確さ [寸法精度] b 強度
	F-2 種類	<ul style="list-style-type: none"> a 研究用模型 [スタディモデル] b 作業用模型 c 複製模型 d 耐火模型
	F-3 模型材の種類	<ul style="list-style-type: none"> a α-石膏系 b β-石膏系 c 模型用埋没材
	F-4 模型に対する処置	<ul style="list-style-type: none"> a リリーフ b 後堤法 [ポストダム] c ビーディング d ブロックアウト e ティッシュストップ
	G. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	G-1 咬合床の要件と構造	<ul style="list-style-type: none"> a 要件 b 基礎床 c 咬合堤 d 支台 [維持] 装置 e 連結子 [装置]
	G-2 咬合床の製作	<ul style="list-style-type: none"> a 外形線記入 b 基礎床の製作 c 支台 [維持] 装置および連結子 [装置] の組込み d 咬合堤製作
	G-3 顎間関係の診察	<ul style="list-style-type: none"> a 咬合平面 b 垂直的顎間関係 (咬合高径) c 水平的顎間関係
	G-4 対向関係による咬合採得の種類	<ul style="list-style-type: none"> a 残存歯咬合のある中間欠損 b 残存歯咬合のある遊離端欠損 c 残存歯の咬合のないもの
	G-5 咬合床の口腔内調整	<ul style="list-style-type: none"> a 基礎床

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> b 支台〔維持〕装置, 連結子〔装置〕 c 咬合堤
	G-6 頭蓋に対する上顎の位置決定	a フェイスボウトランスファー
	G-7 顎間関係の記録	<ul style="list-style-type: none"> a 中心咬合位の記録 b 中心位の記録 c 偏心位の記録
	H. 咬合器装着	<ul style="list-style-type: none"> a 咬合器の種類 b 作業用模型の装着 c 咬合器の調節
	I. 支台〔維持〕装置の製作	
	I-1 鋳造鉤	<ul style="list-style-type: none"> a 設計線の記入 b 作業用模型の修正 c 作業用模型の複製 d ワックスパターンの製作 e 埋没 f 鋳造, 研磨
	I-2 線鉤	<ul style="list-style-type: none"> a 設計線の記入 b アームの製作 c レストの製作 d レストの鑲着
	J. 大連結子〔装置〕の製作	
	J-1 屈曲法	<ul style="list-style-type: none"> a 外形線の記入 b リリーフ c 屈曲 d 脚部の製作（保持形態）
	J-2 鋳造法	<ul style="list-style-type: none"> a 型ごと埋没法 b ワックス圧接法
	K. フレームワークの製作	
	K-1 作業用模型の修正	
	K-2 複（製）印象	
	K-3 型の製作	<ul style="list-style-type: none"> a 支台〔維持〕装置 b 連結子〔装置〕
	K-4 埋没	<ul style="list-style-type: none"> a 耐火模型のトリミング b 模型基底部の調整 c スプルー線の植立
	K-5 鋳造	
	L. 人工歯の排列	
	L-1 人工歯選択	<ul style="list-style-type: none"> a 目的と所要条件 b 人工歯の種類 c 人工歯の選択
	L-2 人工歯排列	<ul style="list-style-type: none"> a 前歯部の排列 b 臼歯部の排列
	L-3 人工歯削合	a 中心咬合位での削合

大項目	中項目	小項目
	L-4 部分床義歯における特異性	b 側方咬合位での削合 [BULLの法則] a 残存歯との調和 b 形態修正
	M. 歯肉形成	
	M-1 要点	a 審美性 b 機能性 c 衛生的条件
	M-2 唇側, 頬側の形成	a 歯頸線 b 歯間乳頭 [歯間空隙] c 歯冠豊隆 d 残存歯との調和
	M-3 舌側, 口蓋側の形成	a S字状隆起 b 口蓋皺襞 [ヒダ]
	M-4 床縁の形態	a コルベン状形態 b 移行形
	M-5 仕上げ	
	N. 義歯の口腔内試適	
	N-1 試適時の診察	a 着脱性 b 維持および安定性 c 咬合関係 d 床の適合性 e 審美性 f 構音 g 装着感・異物感
	O. 義歯の埋没・重合・研磨	
	O-1 クラスプ, バーの前処置	
	O-2 フラスク埋没	a 義歯要素をすべて下部に取る方法 [フランス式埋没法] b 義歯要素をすべて上部に取る方法 [アメリカ式埋没法] c 人工歯を上部に, 他を下部に取る方法 [アメリカ・フランス併用式埋没法]
	O-3 レジン重合	a 流蠟 b レジン填入 c 重合
	O-4 取り出しと研磨	
	P. 義歯の口腔内装着	
	P-1 装着時の検査	a 着脱性 b 維持および安定性 c 咬合関係 d 床の適合性 e 審美性 f 構音

大項目	中項目	小項目
13. 術後の管理	P-2 装着時の調整 P-3 装着時の指導 A. 残存組織・人工物の管理 A-1 残存歯 A-2 顎堤 A-3 残存歯列 A-4 人工歯列 A-5 中心咬合位の変化 A-6 咬合変化への対応 B. 顎関節・筋の異常 C. 義歯の破損 D. 義歯の不適合への対応 E. 義歯不適合の改善 F. 指導	g 装着感・異物感 a 支台歯の齶蝕 b 残存歯の齶蝕 c 支台歯の動揺 d 歯周炎 e 残存歯の疼痛 a 吸収 b 病的変化 c 顎堤粘膜の疼痛 d レジンアレルギー e 灼熱感 f 乾燥感 a 咬合関係 b 咬合接触状態 a 咬合関係 b 咬合接触状態 c 咬耗 d 摩耗 e 咬傷 a 咬合高径 b 水平的位置 a 咬合面再形成 b 咬合調整 a 顎関節の異常 b 筋の異常 a 義歯床 b 人工歯 c 支台〔維持〕装置 d その他の構成要素 a 適合試験 b 義歯性潰瘍 a リライン b リベース a ホームケアとプラークコントロール b リコール

(Ⅲ) 無歯顎による障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 障害の種類	A. 形態障害 B. 機能障害 C. 心理的障害	

大項目	中項目	小項目
2. 障害の病因と病態	D. 社会的障害 A. 歯の喪失の原因 A-1 齲蝕 A-2 歯周病 A-3 外傷 A-4 咬合性外傷 B. 顎堤の変化 B-1 咬合支持様式の変化 B-2 歯槽骨の喪失 B-3 顎堤形態の変化 B-4 顔貌の変化 C. 感覚の変化 C-1 歯髄感覚の喪失 C-2 歯根膜感覚の喪失 C-3 粘膜感覚の変化 D. 障害とその病態 D-1 形態異常 D-2 機能障害 D-3 心理的障害 D-4 社会的障害 D-5 その他 E. 無歯顎堤の分類 E-1 顎堤弓形態よる分類 E-2 顎堤吸収程度による分類	a 生理的吸収 b 病的吸収 c 不適合義歯による吸収 a 上顎顎堤の変化 b 下顎顎堤の変化 a 老人様顔貌 b 舌の肥大 a 咀嚼障害 b 嚥下障害 c 構音障害 d 顎機能障害 e 咀嚼筋機能障害
3. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 自覚症候 B. 他覚症候	
4. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身状態の把握と対応 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察	a 主訴 b 現病歴 c 一般既往歴 a 必要なバイタルサインの測定 b 栄養状態 c 基礎疾患 d 常用薬剤 a 顔貌 b 頬 c 口唇

大項目	中項目	小項目
5. 検査	C-2 口腔内の診察	<ul style="list-style-type: none"> d モダイオラス e 咀嚼筋・頸筋 f 鼻唇溝 g オトガイ唇溝 a 上顎の形態・組織性状・感覚 b 下顎の形態・組織性状・感覚 c 小帯 d 舌
	C-3 旧義歯の診察	<ul style="list-style-type: none"> e 対向関係 a 義歯床形態 b 義歯床の適合状態 c 人工歯の排列位置 d 人工歯の摩耗 e 咬頭嵌合位 f 咬合高径 g 咀嚼機能 h 構音機能 i 義歯の清掃状態
6. 評価と診断	D. プロブレムリストの作成	
	E. 初期計画の立案	
7. 治療計画を左右する因子	E-1 診断計画	
	E-2 治療的計画	
7. 治療計画を左右する因子	E-3 教育計画	
	F. インフォームドコンセント	
7. 治療計画を左右する因子	A. 検査	
	A-1 口腔検査	<ul style="list-style-type: none"> a 顎堤粘膜検査 b 唾液検査
7. 治療計画を左右する因子	A-2 機能検査	<ul style="list-style-type: none"> a 下顎位検査 b 下顎運動検査 c 構音検査 d 嚥下機能検査 e 咀嚼筋筋電図
	B. 画像検査	<ul style="list-style-type: none"> a パノラマエックス線検査 b 顎関節単純撮影エックス線検査
7. 治療計画を左右する因子	C. 模型上の検査	<ul style="list-style-type: none"> a 研究用模型検査 b 咬合器上の研究用模型検査
	A. 顎堤の評価・診断	
7. 治療計画を左右する因子	B. 機能の評価・診断	
	C. 口腔衛生状態の評価・診断	
7. 治療計画を左右する因子	D. パーソナリティーの評価・診断	
	E. 治療計画の立案	
7. 治療計画を左右する因子	F. インフォームドコンセント	
	A. 口腔内因子	
7. 治療計画を左右する因子	A-1 咬合に関する因子	

大項目	中項目	小項目
<p>8. 治療法</p> <p>9. 補綴装置（全部床義歯ほか）</p>	<p>A-2 口腔環境のリスクファクター</p> <p>A-3 顎堤の状態</p> <p>A-4 審美性</p> <p>A-5 口腔内感覚と構音</p> <p>A-6 口腔衛生〔清掃〕状態</p> <p>B. 全身的因子</p> <p>B-1 他科処置との関連</p> <p>B-2 全身疾患を有する者・高齢者</p> <p>C. 社会・心理的因子</p> <p>C-1 職業</p> <p>C-2 習癖・習慣</p> <p>C-3 患者の受療条件</p> <p>A. 補綴前処置</p> <p>B. 全部床義歯</p> <p>C. インプラント義歯</p> <p>A. 義歯の分類</p> <p>A-1 目的別分類</p> <p>B. 義歯の構成要素</p> <p>B-1 人工歯</p> <p>B-1-① 人工歯の材質</p> <p>B-1-② 人工歯の形態</p> <p>B-2 義歯床</p> <p>B-2-① 所要条件</p> <p>B-2-② 材質</p> <p>B-2-③ 床各部</p> <p>B-3 金属床義歯</p>	<p>a 最終義歯</p> <p>b 暫間義歯</p> <p>c 即時義歯</p> <p>d 治療用義歯</p> <p>e 移行義歯</p> <p>a レジン歯</p> <p>b 硬質レジン歯</p> <p>c 陶歯</p> <p>d 金属歯</p> <p>a 前歯部人工歯</p> <p>b 臼歯部人工歯</p> <p>b-1 解剖学的人工歯</p> <p>b-2 機能的人工歯</p> <p>b-3 非解剖学的人工歯</p> <p>a レジン床</p> <p>b 金属床</p> <p>a 粘膜面</p> <p>b 研磨〔筋圧〕面</p> <p>c 床縁</p> <p>d 頬, 口唇, 舌との関係</p> <p>a 意義と役割</p> <p>b 種類</p> <p>c 設計の所要条件</p> <p>d フィニッシュライン</p>

大項目	中項目	小項目
10. 設計	C. 機能的要件 C-1 支持 C-2 維持 C-2-① 物理的維持 C-2-② 解剖学的維持 C-3 安定	e ビーディング f ティッシュストップ a 義歯床粘膜面の面積 b 顎堤粘膜の性状 c 顎堤形態 a 吸着 b 接着 c 粘着 d 咬合関係による維持 e 筋圧による維持 a 顎堤形態 b 顎堤粘膜の性状 c 対向関係 a 顎堤形態 b 人工歯の排列位置 c 対向関係 d 咬合平衡 e 咬合様式 e-1 片側性平衡 e-2 両側性平衡
	A. 設計の基本原則 B. 設計手順	a 義歯の安定と残存組織の保護 b 義歯の安定と力の均等配分 c 咬合様式 d 感覚・構音などの条件 e 審美的条件 f 衛生的条件 g 心理的条件 a 義歯床の設計 b 人工歯排列位置の決定 c 義歯に付与する咬合様式の選択
11. 治療の到達目標と予後	A. プロブレムの解決 B. 患者の満足 C. 予後	
12. 治療	A. インフォームドコンセント B. 補綴前処置 B-1 外科的処置 B-2 薬物療法	a 歯槽骨・顎骨整形術 b 骨鋭縁部・骨隆起除去 c 顎堤形成術・延長術 d 義歯性線維腫摘出術 e フラビーガム（組織）除去 f 小帯切除術 a 義歯性口内炎 b 褥創性潰瘍

大項目	中項目	小項目
	B-3 補綴的処置	c 嘔吐反射 a ティッシュコンディショニング b 既存義歯の修正 (床適合, 咬合調整, 下顎位) c 治療用義歯
	C. 印象採得の準備	
	C-1 トレー	a トレーの使用目的と所要条件
	C-2 トレーの種類	a 材料 b 既製トレー c 個人トレー d 印象材の保持方法
	C-3 トレーの適合, 調整と製作法	a 既製トレーの適合, 調整 b 個人トレーの製作
	C-4 嘔吐反射に対する処置	a 体位・頭位 b 薬物
	D. 印象法の種類	
	D-1 印象材の組合せ	a 単一印象 b 連合印象
	D-2 目的別分類	a 概形印象 b 最終印象 c リライン印象
	D-3 粘膜への圧力別・機能別	a 加圧印象 b 無圧印象 c 解剖学的印象 d 機能印象 e ダイナミック印象 f 咬合圧印象 g 咬座印象
	D-4 印象材別の分類	a ハイドロコロイド系 b ゴム質 c コンパウンド類 d 酸化亜鉛ユージノール印象材 e ワックス系 f レジン系
	E. 印象採得	
	E-1 目的 [方針]	a 顎堤粘膜部の印象 b 筋圧面の機能的調和
	E-2 基底面、床縁と研磨面の表現方法	a 負担圧の均等化 b 筋圧形成 c フレンジテクニク
	E-3 前準備	a 前投薬 (嘔吐反射) b トレーの選択, 適合, 修正
	E-4 概形印象	

大項目	中項目	小項目
	E-5 研究用模型製作	
	E-6 研究用模型による診断	a 床外形線 b リリーフ [緩衝] 部位の決定 c 後堤法 [ポストダム]
	E-7 個人トレー製作	a リリーフ [緩衝] b ブロックアウト c スペーサー d ストッパー
	E-8 精密印象	a 辺縁 [筋圧] 形成
	F. 模型	
	F-1 所要条件	a 正確さ [寸法精度] b 強度
	F-2 種類	a 作業用模型 b 研究用模型 [スタディモデル] c 複製模型 d 耐火模型
	F-3 模型材の種類	a α -石膏系 b β -石膏系 c 模型用埋没材
	F-4 模型の製作	a 作業用模型 b スプリットキャスト c 複製模型
	F-5 模型に対する処置	a 床外形線 b 歯槽頂線 c リリーフ [緩衝腔] d 後堤法 [ポストダム] e ブロックアウト f 模型正中線
	G. 顎間関係記録 [咬合採得] の前準備	
	G-1 顎間関係記録 [咬合採得] の目的	
	G-2 咬合床の要件と構造	a 要件 b 基礎床 c 咬合堤
	G-3 咬合床の製作	a 外形線記入 b 基礎床の製作 c 咬合堤製作 d 咬合平面板 e ゴシックアーチ描記装置
	H. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	H-1 咬合床の口腔内調整	a 基礎床の適合検査と調整 b 咬合堤
	H-2 仮想咬合平面の決定	a カンペル平面 [鼻聴道線] b 瞳孔線 c フランクフルト平面

大項目	中項目	小項目
	H-3 垂直的顎間関係 [咬合高径] の決定	d 舌側縁 e 口角 f HIP プレーン a 下顎安静位利用法 b 嚙下運動利用法 c 発音利用法 d 最大咬合力利用法 e 顔面計測法 f 顔面に審美的特徴を利用する方法
	H-4 水平的顎間関係の決定 [中心咬合位の採得]	a 習慣性閉口路利用法 b タッピング運動利用法 c ゴシックアーチ描記法 d 触診法 (筋・顎関節) e 嚙下運動利用法 f ワルクホッフ小球利用法 g 頭部後傾法
	H-5 転覆試験	
	H-6 咬合堤形態の付与	a アーチの大きさの決定 b 豊隆度 c 顔貌 d 審美性
	H-7 基準線の記入	a 正中線 b 口角線 c 上唇線 d 下唇線 e 鼻翼幅線
	H-8 上下顎咬合床の固定	
	I. 咬合器への模型装着	
	I-1 頭蓋に対する上顎位置の採得	a フェイスボウトランスファー b フェイスボウの構造と種類 c ボンウィル三角 d バルクウィル角 e 前方基準点 [鼻翼下点・眼窩下点] f 後方基準点 [顎頭点]
	I-2 咬合器	a 平均値咬合器 b 半調節性咬合器 c 全調節性咬合器 d アルコン型咬合器 e コンダイラー型咬合器 f 咬合器の選択
	I-3 模型の装着	a フェイスボウトランスファー b 咬合平面板の利用

大項目	中項目	小項目
	J. 下顎運動の記録と咬合器の調節	
	J-1 顎路測定	a 目的 b チェックバイト法 c クリステンセン現象 d パントグラフ法 e 下顎運動記録装置を用いる方法
	J-2 顎路の調節	
	J-3 切歯路の調節	
	K. 人工歯の選択	
	K-1 人工歯の種類	a 材質 b 形態 c 色調
	K-2 前歯部選択	a SPA 要素 b 顔の形・色 c モールドガイド d シェードガイド
	K-3 臼歯部選択	a 顎路傾斜 b 切歯路傾斜 c 咬頭傾斜角 d 顎堤形態 e 歯槽頂間線
	L. 人工歯の排列	
	L-1 基準平面	a 仮想咬合平面
	L-2 前歯部排列	a 基準線 b 歯冠軸の傾斜角度 c 被蓋 d 審美性 e 笑線 f 歯頸線の位置・形態 g 構音
	L-3 臼歯部排列	a 排列の原則 b 歯槽頂間線の法則 c ニュートラルゾーン d 調節湾曲 e パウンドライン f 両側性平衡咬合 g 片側性平衡咬合 h リンガライズドオクルージョン i テンチの間隙 j 交叉咬合排列 k 非解剖学的人工歯の排列 l Hanau の咬交の 5 要素
	M. 歯肉形成	

大項目	中項目	小項目
	M-1 要点	a 審美性 b 機能性 c 衛生的条件
	M-2 唇側，頬側の形成	a 歯頸線 b 歯間乳頭 [歯間空隙] c 歯根豊隆 d 残存歯との調和
	M-3 舌側，口蓋側の形成	a S字状隆起 b 口蓋ヒダ [口蓋皺壁]
	M-4 床縁の形態	a コルベン状 b 移行形
	M-5 仕上げ	
	N. ろう義歯の口腔内試適	
	N-1 審美性の診察	a 顔貌 b 排列・被蓋・色調
	N-2 維持および安定	a 床の適合性 b 床外形 c リリーフ [緩衝腔] d 後堤法 [ポストダム] e 転覆試験
	N-3 咬合	a 咬合位の診察 b 咬合接触 c 咬合高径
	N-4 装着感・異物感	
	N-5 構音	a 構音検査
	O. 義歯の埋没・重合・研磨	
	O-1 歯型採得	a テンチの歯型
	O-2 蠟義歯の埋没	a フラスク b 埋没材 c 埋没方法
	O-3 流蠟	
	O-4 レジン重合	a 加熱重合法 b 長時間低温重合法 c マイクロウェーブ重合法 d 流し込み法 e 射出成形法 f 光重合法
	O-5 取り出し	
	O-6 咬合器再装着	a テンチの歯型を用いる方法 b フェイスボウを用いる方法 c スプリットキャストを用いる方法
	O-7 削合	a 中心咬合位での削合 b 側方咬合位での削合 c 自動削合
	O-8 研磨	

大項目	中項目	小項目
13. 術後の管理	P. 義歯の口腔内装着 P-1 装着時の診察 P-2 装着時の調整 P-3 装着時の指導 P-4 装着後の検査・評価 A. 残存組織の管理 A-1 顎堤 A-2 義歯床下粘膜 A-3 顎堤・粘膜の変化への対応 A-4 顎関節・筋の異常 A-5 顎関節・筋の異常への対応 B. 咬合の管理 B-1 人工歯の変化 B-2 中心咬合位の変化 B-3 咬合変化への対応 C. 義歯の管理 C-1 義歯床の破折・破損	a 着脱性 b 維持および安定性 c 咬合関係 d 床の適合性 e 審美性 f 構音 g 装着感・異物感 a 生理的吸収 b 病的変化 a 義歯性潰瘍 b フラビーガムの形成 c 義歯性線維症の形成 d 義歯性口内炎 e レジンアレルギー f 灼熱感 g 乾燥感 a 適合試験 b リリーフ c ティッシュコンディショニング d リライン e リベース a 顎関節の異常 b 筋機能の異常 a 咬合の診察 b 咬合関係の修正 c 咬合調整 a 摩耗 b 咬耗 c 破折 d 脱落 a 咬合高径 b 水平的位置 a 咬合面再形成 b 咬合調整 c 人工歯の交換 a 部位 b 原因

大項目	中項目	小項目
	C-2 人工歯破折・破損・脱落 C-3 修理法 D. 指導	a 部位 b 原因 a ホームケアとプラークコントロール b リコール

(Ⅳ) 顎顔面欠損による障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 障害の種類 2. 障害の病因と病態	A. 機能障害 B. 形態障害 C. 心理的障害 D. 社会的障害 A. 病因 A-1 先天性疾患 A-2 腫瘍 A-3 炎症 A-4 外傷 A-5 その他 B. 欠損の分類 B-1 上顎・軟口蓋の欠損 B-2 下顎・舌の欠損 B-3 顔面欠損 C. 装置の分類 C-1 顎義歯 C-2 エピテーゼ C-3 滑面板 C-4 鼻咽腔部補綴装置 C-5 舌接触補助床 C-6 口蓋床 C-7 インプラント補綴装置 C-8 その他	a 栓塞部（充実型，開放型，中空型） b 床部 c 支台装置 d 連結子 e 人工歯 a スピーチエイド b 軟口蓋挙上装置 c 軟口蓋栓塞子 a 顎顔面補綴 b 頭蓋インプラント a ステント b 斜面板 c 放射線治療補助装置 d 分割義歯
3. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 自覚症候 B. 他覚症候	

大項目	中項目	小項目
4. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療的計画 E-3 教育計画 F. インフォームドコンセント	
5. 検査	A. 口腔検査 B. 咬合検査 C. 機能検査 C-1 咀嚼能力〔能率〕検査 - 咀嚼能率測定 C-2 構音検査 C-3 嚥下機能検査 D. 模型検査 D-1 研究用模型検査 E. エックス線検査	
6. 評価と診断	A. 顎顔面の形態の評価・診断 B. 顎顔面の機能の評価・診断 C. 口腔衛生状態の評価・診断 D. パーソナリティの評価・診断	
7. 治療法（リハビリテーション）	A. 補綴前治療 B. 外科的再建 C. 補綴的修復 D. 精神的ケア	
8. 治療の到達目標	A. プロブレムの解決 B. 患者の満足 C. 長期間にわたる良好な予後	
9. 術後の管理	A. 残存組織の変化とその対応 B. 顎関節・筋の異常 C. 装置の破損とその対応 D. 装置の不適合への対応 E. 適合性の改善 F. 指導	
10. 他科との連携	A. 顎顔面の変化と異常・その対応 B. 顎顔面と全身との関連・その対応	

(V) 欠損・障害の口腔インプラント補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. インプラントの基本構造 2. 障害の種類 3. 障害の病因と病態 4. 主要症候〔症状と徴候〕 5. 医療面接と診察 6. 検査	A. 種類 B. 基本構造 C. 器具と材料 A. 自覚症候 B. 他覚症候 A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療的計画 E-3 教育計画 F. インフォームドコンセント A. 口腔検査 A-1 歯髄検査 A-2 歯周組織検査 A-3 歯列の検査 A-4 唾液検査 B. 咬合検査 B-1 咬合接触検査 B-2 誘導様式の検査 C. 機能検査 C-1 咀嚼能力〔機能〕検査・ 咀嚼能率測定 C-2 顎運動検査 C-3 筋機能検査 C-4 構音検査 C-5 嚥下機能検査 D. 模型検査 D-1 研究用模型検査 D-2 咬合器上の研究用模型 検査 E. エックス線検査 E-1 デンタルエックス線検査 E-2 パノラマエックス線検査 E-3 顎関節単純撮影エックス線検査 E-4 CT 検査	

大項目	中項目	小項目
7. 評価と診断	F. 印象採得と咬合採得 G. 上部構造の製作 H. 上部構造の装着 A. 全身的评价 (年齢, 有病者) B. 局所的评价 B-1 歯周組織の評価 B-2 顎骨構造の評価 B-3 咬合の評価 C. 顎骨 (骨質) の評価・診断 D. 診断用ワックスアップと補綴診断 E. インプラントの適応症と禁忌症	
8. 補綴装置	A. 上部構造 A-1 術者可撤式スクリュー固定式 A-2 患者可撤式 A-3 セメント固定式 A-4 オーバーデンチャー B. 診断用ワックスアップと補綴診断 C. インプラントの適応症と禁忌症	
9. 治療の到達目標	A. インプラントのテクノロジーアセスメント B. プロブレムの解決	
10. 治療	A. インフォームドコンセント B. 前処置 C. 一次手術 D. 二次手術 E. 印象採得と咬合採得 F. 上部構造の製作 G. 上部構造の装着	
11. 術後の管理と臨床経過	A. 予後に影響する因子 A-1 外科的要因 (主に一次手術) A-2 歯周的要因 (主に二次手術) A-3 補綴的要因 (主にバイオメカニクス) A-4 習慣 A-5 偶発症および生じうる障害に対する対応 B. 評価基準 B-1 動揺度検査 B-2 エックス線画像検査	

大項目	中項目	小項目
12. 口腔インプラントの応用	B-3 インプラント周囲検査 C. 術後に生じる局所の問題と対策 D. 補綴装置の破損への対応 E. 指導 A. 顎顔面インプラント B. 矯正治療のためのインプラント C. その他	a 部位 b 原因 a ホームケアとプラークコントロール b リコール

(VI) 顎機能障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 病態	A. 主要症状	
	A-1 顎関節や咀嚼筋などの疼痛	
	A-2 関節雑音	
	A-3 開口障害ないし顎運動異常	
2. 分類	B. 随伴症状	
	A. 変形性顎関節症	
	B. 関節円板障害	
	C. 咀嚼筋障害	
	D. 関節包・靭帯障害	
3. 病因と発症メカニズム	A. 発症因子	
	A-1 素因	
	A-2 初発因子	
	A-3 永続化（寄与）因子	
	A-4 その他	
	B. 発症メカニズム	
4. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 自覚症候	
	B. 他覚症候	
5. 医療面接と診察	A. 医療面接	
	B. 全身的診察	
	C. 局所的診察	
	C-1 口腔外の診察	
	C-2 口腔内の診察	
	D. プロブレムリストの作成	
	E. 初期計画の立案	
	E-1 診断計画	
	E-2 治療的計画	
	E-3 教育計画	
		a ブラキシズム・不良姿勢 b ストレス

大項目	中項目	小項目
6. 検査	F. インフォームドコンセント A. 基本検査 A-1 筋の触診 A-2 顎関節部の触診 A-3 顎関節音の聴診 B. 顎運動の検査 A-1 開口距離 C. 咬合検査 D. 画像検査 D-1 パノラマエックス線検査 D-2 顎関節単純撮影エックス線検査 D-3 CT検査 D-4 MRI E. 機器を用いた検査 F. その他の検査	a 咬筋 b 側頭筋 c 内側翼突筋 d 外側翼突筋 e 顎二腹筋 f 胸鎖乳突筋 a クリッキング b クレピテーション
7. 評価と診断	A. 鑑別診断 B. 病態の診断 B-1 変形性顎関節症 B-2 関節円板障害 B-3 咀嚼筋障害 B-4 関節包・靭帯障害 C. 予後の判断 D. 治療方針の立案 D-1 可逆的治療の優先	
8. 治療の到達目標	E. インフォームドコンセント A. プロblemsの解決 B. 患者の満足 C. 長期にわたる良好な予後	
9. 治療	A. 習癖指導, ホームケア B. 理学療法 C. 薬物療法 D. スプリント治療 D-1 スタビライゼーション スプリント E. 咬合治療 F. 精神心理学的治療 G. 外科的療法	
10. 術後の管理		

(Ⅶ) 歯・歯列・歯周組織・口腔の疾患・障害の補綴治療学

大項目	中項目	小項目
1. 疾患・障害の分類	A. 咬合異常 A-1 早期接触 A-2 咬頭干渉 B. 不正咬合 B-1 歯間離開による障害 B-2 咬合接触点不良による障害 B-3 開咬による障害 C. 変色・着色	
2. 病態	A. 咬合異常 B. 不正咬合 C. 変色・着色	
3. 主要症候〔症状と徴候〕	A. 自覚症候 B. 他覚症候	
4. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療的計画 E-3 教育計画	
5. 検査	F. インフォームドコンセント A. 形態的な検査法 B. 機能的な検査法	
6. 評価と診断	A. 評価・診断 B. 前処置	
7. 治療の到達目標	A. プロブレムの解決 B. 患者の満足 C. 長期にわたる良好な予後	
8. 治療	A. インフォームドコンセント B. 歯冠修復法 C. 咬合調整法 D. 漂白法	
9. 術後の管理		

(Ⅷ) 摂食嚥下障害

大項目	中項目	小項目
1. 病態	A. 摂食障害 B. 嚥下障害 C. 摂食嚥下障害の分類	

大項目	中項目	小項目
<p>2. 発症に関わる全身的因子</p> <p>3. 口腔領域に起因する摂食嚥下障害</p> <p>4. 医療面接と診察</p> <p>5. 検査</p> <p>6. 評価・診断</p> <p>7. 咀嚼嚥下障害への対応</p> <p>8. 摂食嚥下障害への介護</p>	<p>C-1 嚥下過程からの分類</p> <p>C-2 障害の程度による分類</p> <p>C-3 障害の発現機序による分類</p> <p>D. 摂食嚥下障害継発疾患</p> <p>D-1 誤嚥性肺炎</p> <p>A. 発達障害</p> <p>B. 摂食嚥下障害をきたす疾患</p> <p>C. 加齢に伴う摂食嚥下障害</p> <p>A. 形態的要因</p> <p>B. 機能的要因</p> <p>A. 医療面接</p> <p>B. 全身的診察</p> <p>C. 局所的診察</p> <p>C-1 口腔外の診察</p> <p>C-2 口腔内の診察</p> <p>D. プロブレムリストの作成</p> <p>E. 初期計画の立案</p> <p>E-1 診断計画</p> <p>E-2 治療的計画</p> <p>E-3 教育計画</p> <p>F. インフォームドコンセント</p> <p>A. 咀嚼機能検査</p> <p>B. 嚥下機能検査</p> <p>A. 咀嚼・嚥下機能の評価・診断</p> <p>B. 治療計画の立案</p> <p>C. インフォームドコンセント</p> <p>A. 治療目的</p> <p>B. 直接訓練</p> <p>C. 間接訓練</p> <p>D. 理学療法</p> <p>E. 外科的介入</p> <p>F. 歯科的介入</p> <p>A. 口腔保健</p> <p>B. 看護</p> <p>C. 栄養・食事指導</p>	<p>a 先行期障害</p> <p>b 準備期障害</p> <p>c 口腔期障害</p> <p>d 咽頭期障害</p> <p>e 食道期の障害</p> <p>f 複数期の障害</p> <p>a 主訴</p> <p>b 現病歴</p> <p>c 一般既往歴</p> <p>d 関連する症状</p> <p>a 水飲みテスト</p> <p>b ビデオ嚥下造影 [VF 検査]</p>

大項目	中項目	小項目
9. 摂食嚥下障害の管理プログラム	A. 歯科診療所での対応 B. 在宅・施設入所者への対応 C. 地域社会におけるチームアプローチ D. 他分野との連携	

歯科補綴学教育基準 改訂 2006

平成 19 年 1 月 10 日発行

(日本補綴歯科学会雑誌 51 巻 1 号収載)

発行者 社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 赤川安正

〒 170-0003
東京都豊島区駒込 1-43-9

編集者 社団法人 日本補綴歯科学会
教育問題検討委員会
